

## 議 事 要 旨

議 事 要 旨	
会 議 名	徳島県がん診療連携協議会 情報提供・相談支援部会会議
日 時	平成27年2月19日(木) 19:00～21:00
場 所	大会議室(徳島大学病院中央診療棟)
出 席 者	福森会長、香美部会長、郡 <sub>利</sub> 委員、郷委員、仁木委員、安藤委員、坂東委員(水田)、吉田委員、片山委員、林委員、藤原 <sub>重</sub> 委員、勢井委員、木田委員、鎌村委員、近藤委員 ※( )は代理出席者〔敬称略〕
実務者	福田社会福祉士、宮崎臨床心理士、有馬主任主事、住友課長補佐、島村社会福祉士
欠席者	寺嶋委員、金山委員、藤原 <sub>晴</sub> 委員、郡 <sub>章</sub> 委員、森委員、山口委員
陪席	徳島県健康増進課:山田係長、仙波主事 徳島大学病院:三木看護師長、安部専門職員、松村事務員、宮越事務補佐員
<p><b>議 題</b></p> <p>香美部会長の司会進行のもと、がん診療連携協議会情報提供・相談支援部会会議が開催された。</p> <p><b>【報告事項】</b></p> <p><b>1. 都道府県がん診療連携協議会 情報提供・相談支援部会報告について</b></p> <p>徳島大学病院実務者の福田社会福祉士から、資料「第3.4回都道府県がん診療連携拠点病院連絡協議会情報提供・相談支援部会報告」についての説明があった。説明の前に、すべての部会資料を添付資料とするとかなり枚数が多くなるため、プログラムと議事要旨のみ添付資料としている、その他の部会資料はがん情報サービスのホームページにて閲覧いただきたいとの補足があった。</p> <p>(1) 第3回都道府県がん診療連携拠点病院連絡協議会情報提供・相談支援部会</p> <p>平成26年6月12日に第3回部会が開催され、徳島県がん診療連携協議会会長である福森会長と福田社会福祉士が参加した。</p> <p>平成26年1月に出された整備指針では相談支援センターの体制・業務についても変更・追加があったため、新整備指針についての確認が行われた。</p> <p>また、相談支援センターの評価基準について検討されたが、現行の評価基準にかわる新基準の提案についてはコンセンサスを得られず引き続き議論を行うこととなった。研修の評価と事務局機能の強化が提案内容として決定した。</p> <p>(2) 第4回都道府県がん診療連携拠点病院連絡協議会情報提供・相談支援部会</p> <p>平成26年12月1日に第4回部会が開催され、徳島県がん診療連携協議会会長である福森会長と福田社会福祉士が参加した。</p> <p>がん相談支援センターに新たに求められる役割に関する好事例の共有として、国立がん研究センターが行ったがん相談支援センターの活動状況についてのアンケート「業務を行うにあたり困難に思っていること」の回答のうち、新整備指針に関連した内容として、1.新整備指針に関連した体制整備が困難である(79件)、2.就労支援の進め方に思案している(51件)、3.相談員の質の担保に課題がある(31件)、4.希少がんや治験、最新治療の情報提供が不十分である(10件)であったとの報告があった。</p>	

次に、鹿児島県が行っているがん相談支援センターの活動における PDCA サイクルの確保に関する取り組みが報告された。鹿児島県がん診療連携協議会相談支援部会においてがん相談支援センターの活動を可視化。活動内容を分類して項目として挙げ、各相談支援センターで実施されているか調査。実施の有無を継続して調査している。

次に、相談支援センターとして焦点を当てるべき活動の可視化と果たすべき役割の検討として、相談支援センターの活動の PDCA サイクル確保等を検討するためのワーキンググループを発足させること、都道府県拠点病院に新たに求められる役割とがん対策情報センターによるサポートとして、施設別臨床試験検索システム、施設別がん登録件数検索システム(都道府県がん診療連携拠点病院)、統計的かつ統計的な研修の機会の提供について説明があったとの報告があった。

香美部会長から、がん相談支援センターの業務内容等や持つべき機能などの意見交換がなされ、方向性が示されてきているとの意見があった。

福森会長から、参加して思ったことは、国は患者さんの意見を反映させたいとの強い意向があり、がん相談支援センターとして名称が全国統一となった。ロゴも許可を申請すれば使用可能である。今秋、当院新外来棟が建て替わるため、臨時ではあるがわかりやすいように、がん相談支援センターに看板の変更を行った。また、PDCA サイクルについては全国の部会委員の中から自他推薦によって選出された委員を中心に PDCA サイクル確保するために何をすべきか検討していこうと立ち上がったばかりであるとの報告があった。

## 2. 施設別がん登録数検索システムについて

福田社会福祉士から、資料『「施設別がん登録件数検索システム」のご案内』について説明があった。

検索システムは、都道府県がん診療連携拠点病院の指定要件として希少がんに関して適切な相談支援を行うことができる医療機関への紹介を含め、相談支援を行うことが望ましいとなっており、拠点病院を対象にアンケートを実施した中で希少がんの治験、最新治療、診療実績の情報が不十分であるとの回答が多かったことから、国立がん研究センターがん情報サービスサポートセンターを設置し検索システムを試験的に利用開始したものである。都道府県がん診療連携拠点病院の事前に登録をした相談支援センターのパソコンのみが利用可能となっており、徳島県では徳島大学病院のがん相談支援センターのパソコン1台のみとなっている。利用目的は相談支援のみに限定されている。2009年以降の症例数が検索可能で、指定した条件で症例数が5件未満の場合は『1~4』と表示され個人が特定されないようになっている。相談者に検索結果を伝える場合は、相談者に検索システムの免責事項と留意点を必ず説明することとなっている。

平成27年1月14日に開催された実務者ワーキンググループにおいて「施設別がん登録数検索システム」利用の手順の案として検討を行った。出席された実務者の意見等を参考に案を修正し、国立がん研究センターにも確認を行った。あくまでも相談支援における情報提供を行うための1つのツールとして利用すること、情報の取り扱いに注意することなど取り決めた。今後は利用手順に基づき、運用を開始してもよいかとの提案があった。

勢井委員から、現在は県内では徳島大学病院だけで使用できているが、今後は地域がん診療連携拠点病院でも使用できる体制になるように、実務者等から国に要望をしていただきたい。また、情報として大阪がんええナビでは、がん登録の情報など詳しく掲載している。5件以下も掲載しているが苦情も出ていない。徳島県の情報も掲載していただけるよう検討いただきたいとの要望があった。

福森会長から、大阪ええナビは素晴らしいサイトである。検討を行いたい、大阪の人口に比べ

ると徳島は人口も少なく患者のプライバシーにもかかわってくるため掲載していない。情報として掲載はしたいが、問題があるため困難と思われるとの回答があった。

続けて福森会長から、検索システムについて問い合わせがあった場合、迅速に対応できるのかとの質問があり、福田社会福祉士から、問い合わせをいただいた場合はなるべく迅速に対応したいとの回答があった。

鎌村委員から、利用手順に記載されている地域がん診療病院の表記が少し異なっているため、相談させていただきたい。この表記はがん相談支援センターを設置されている病院とのことであるのかとの質問があった。

福田社会福祉士から、国立がん研究センターから地域連携が取れている病院から運用してはどうかとの提案があり、ワーキンググループのメンバーでもある病院を記載していることの補足説明があり、福森会長から、他の名称で表記を行いたいとの回答があった。

香美部会長から、利用手順(案)については一部修正を行い、運用を開始してもよいかとの決議があり、出席委員で検討の結果、提案のとおり了承された。

### 3. 実務者会議報告について

徳島大学病院実務者の宮崎臨床心理士から、平成27年1月14日に実務者ワーキンググループを開催し、次のとおり今年度の報告と来年度の事業計画について協議したとの報告があった。

#### (1) 平成26年度がん相談支援センター相談員指導者フォローアップ研修の報告

国立がん研究センターで開催された指導者フォローアップ研修に、徳島赤十字病院島村社会福祉士、徳島県立中央病院有馬主任主事、徳島大学病院宮崎臨床心理士の3名が参加した。

#### (2) 平成27年度徳島県がん相談員研修の計画

徳島県がん診療連携協議会または情報提供・相談支援部会の主催として、2本立てで開催を予定している。1つは都道府県がん診療連携拠点病院が行い、対象は県内拠点病院等の相談員とする。もうひとつは2次医療圏の地域がん診療連携拠点病院が県内の相談支援員を対象に実施する。詳細な実施計画は、地域がん診療拠点病院がん相談員指導者および実務者によるコアメンバーで検討することとなった。開催日については、今後調整して早めに案内を行う予定である。

#### (3) 県内療養情報の充実(冊子やパンフレット、ホームページなど)

医療情報冊子、療養冊子の発行やサイトの開設が徳島県ではまだ行われていない。今後も引き続き検討していく。

#### (4) 平成27年度がん相談支援センター相談員指導者研修への参加

人材育成も次年度の課題であり、次年度国立がん研究センターでのがん相談員指導者研修に各拠点病院から何名か参加していただきたい。応募資格は国立がん研究センター基礎研修(1)～(3)まで修了されている方で、現在県内では十数名おられる。徳島大学病院から1名と他施設から2名、計3名が1組となって応募する必要がある。徳島県内での指導者研修修了者は、現在3名しかいないので、次年度は是非とも参加していただき、指導者となっていただきたい。

### 【協議事項】

#### 4. 来年度事業計画について(研修会等について)

香美部会長から、来年度事業計画についても議題3で報告をしていただいたとの説明があった。

福森会長から、がん相談支援センター相談員指導者研修について、徳島県内では指導者の方が少ないため、ぜひ研修に参加していただきたいとの要望があった。

## 5. その他

(1) 勢井委員から、情報提供ということでNPO法人AWAがん対策募金では徳島県からの要請でピアサポーターの養成事業の委託を受けているとの報告があった。徳島県はがんのピアサポーターが少ないが、他県においても少ないのが現状である。患者としてはピアサポートをしてほしい。全国のピアサポーターの講習修了者の登録を徳島でするようになった場合は協力等お願いしたいとの要望があった。

鎌村委員から、今後はマッチングということで活動の場の体制など一緒に作っていききたい。また、フォローアップ研修などを行うなどの取り組みを行っていききたいとの要望があった。

福森会長から、徳島赤十字病院ではピアサポーターの方の登録をされ活動されている。徳島大学病院もピアサポーターに登録いただけるよう準備を行っているとの報告があった。

(2) 近藤委員から、徳島県歯科医師会には在宅歯科医療連携室があり、周術期が主ではあるが、がん患者さんの相談や紹介業務を行っているとの報告があった。また、阿南共栄病院、つるぎ町立半田病院の1室を借りて相談業務を行うこととなった。徳島大学病院と県立中央病院にしか歯科がないため3地区で紹介業務や相談業務を行っていききたいとの報告があった。

(3) 勢井委員から、多数の先生方に協力をいただいているがん検診率向上プロジェクトについて、子どもから親へがん検診を勧めるメッセージカードが、平成27年3月15日の小松島西高校で1万人に達する予定である。メディアにも伝えており企画を組んでいただいているとの報告があった。

(4) 鎌村委員から、議題1都道府県がん診療連携拠点病院連絡協議会相談支援部会報告の中でのアンケートでは「就労支援の進め方に思案している(51件)」となっており、がん相談支援センターでも苦労しているため、徳島県ではがん患者の就労支援として何ができるか、何か結びつくような支援ができるか取り組みの提言などあれば協力していただきたいとの要望があった。

福森会長から、就労支援として徳島大学病院も4月から社会保険労務士に来ていただけるよう準備中であるとの報告があった。

徳島県立中央病院住友課長補佐から、就労支援として去年4月から病院ボランティアとして月2回来ていただいているとの報告があった。相談件数は現在1月までで76件あった。がん以外での糖尿病や難病等の相談も受けており、それらの相談も合わせた相談件数である。働く世代からの相談は全体の1割程度である。相談内容は「仕事をやめた方がいいのか」「治療や保険関係の保障はどうなるのか」「人工肛門を付けた場合に障害年金を受けられるのか」などであった。当院の相談者は後期高齢者や65歳以上の方が多いため、本当は働く世代の方にスポットを当てて、仕事を辞めないように支援を行いたい。施設別がん登録件数検索システムで働く世代がどのぐらいいるのか検索できるのではないかと。そのような情報を調べてワーキンググループで話し合い、パンフレット等の作成を行ったり地域に向けて啓発活動を行えるよう検討を行いたい。また、相談員や看護師は社会保険関係や就労に関しては知識が少ないと思われるため、研修会などを開催して知識を広めていただけるよう検討いただきたいとの要望があった。

香美部会長から、当部会は本日で2回目の開催であったが、今回は実務者の方々が色々と提案していただき事業も進んでいる。今後も多数の意見を伺いながら当部会を充実させていききたいとの意見があり、閉会となった。

